



2026年10月1日に三井住友建設より社名変更

アルソシア建設

アルソシア建設は
インフロニアグループの一員です。

 **インフロニア**

 **前田建設**

 **前田道路**

 **前田製作所**

 **日本風力開発**

 **アルソシア建設**

 **水ing**

あしたの
景色を創る

つくっているものは、何だろう。

歴史に刻まれるような建築か。目を見張るほど巨大な橋梁か。

私たちがつくっているもの。

それは、何気ないひとの暮らしの一部分。

その存在に気づかないほど、

毎日に溶け込み、そっと日々を支えている便利さや快適性。

当たり前となって、見えにくくなっている豊かさや幸福感。

昨日より今日、今日よりあした、世界が少しだけ前を向く、

そんな名もなき日常をつくっている。

それこそが私たちが目指すべきインフラの姿だ。

はしも、まちも、ひとも、決して風化することのない

「誰かの大切な景色」として色濃く残っていく。

「誰かの大切な物語」として鮮やかに描かれていく。

そう信じて。

価値創造の歴史

三井建設

建築に強く、住宅・オフィスの需要に応えてきた
三井グループの建設会社

三井の歴史は、延宝元年(1673年)に家祖三井高利が、東京・江戸本町(中央区日本橋本石町)に「三井越後屋呉服店」を、京都に仕入店を設けたのが始まり。家法「宗竺遺書」では「人」に焦点が当てられ、現在の「人の三井」と呼ばれるゆえんでもある。

住友建設

土木に強く、インフラ分野で多くの
実績を残してきた住友グループの建設会社

住友グループの事業は、400年前の南蛮吹の技術開発に始まり、別子銅山の開坑とともに発展を遂げてきた。一家の行動指針となってきたのが、住友友友が商いの心得として示した「文殊院旨意書」で、住友の事業精神の源として現代にまで伝えられている。

1876 - 1945

1876
住友別子銅山の土木建築部門をもとに前身となる土木方創立
経営合理化と施設の近代化の一環として創設。発足と同時に別子運輸の主要な幹線として大きく貢献する牛車道の工事に着手。

1887
三井建設のルーツである西本組を継いだ西本健次郎が率いて請け負った京城・義州間の軍用鉄道敷設工事を契機に、西本組は全国的に認知される。

1945
三井不動産株式会社の資本参加に伴い三井建設工業株式会社に改称
三井建設工業の誕生は、四大財閥として初めての建設業進出となった。終戦後の苦難の時代を乗り越え、日本の復興に貢献。

1950 - 1952

1950
別子建設株式会社として発足
業界の自由競争激化を乗り切るべく、技術力と社会的信用、全体の一致協力体制の確立を図る。
1951年にはいち早くプレストレストコンクリート(PC)技術に着目するなど、工種の多様化に取り組む。

1952
三井建設株式会社へと改称
GHQによる財閥解体指令を免れるため1946年より三建工業へ改称していたが、1952年の政令廃止を受け、三井の社名へと復帰。社員の士気を高め、経営全般に絶大な好影響をもたらした。

1959 - 1974

1959
日本初のディビダーク工法によるPC橋 嵐山橋完成(①)

1962
静岡の勝呂組と合併し、住友建設株式会社が発足
建築施工面で大きな実績のある勝呂組と合併し、業容を拡大。安全管理の強化、新技術の開発などに取り組み、企業体質改善に係る多くの課題解決に奔走。

1966
山梨文化会館が完成(②)

1969
日本初のPC斜張橋万博東ゲート橋が完成(③)

1974
MCS構法初的大型工事
日本における高層集合住宅団地の先駆けとなる千葉ガーデンタウンC棟完成(④)

1982 - 1993

1982
スリランカ国会議事堂完成(⑥)

住友グループが寄贈したコレクションを展示する
大阪市立東洋陶磁美術館完成(⑦)

1990
東北最大級のダム 寒河江ダム完成(⑧)

1991
日本初の本格的鋼管コンクリート構造
大川端パーシティ21A棟完成(⑨)

1993
ガムにレオパレスリゾートが完成(⑩)

2003 - 2005

2003
三井住友建設株式会社 創立
業界トップクラスの実績を誇るプレストレストコンクリート橋梁や超高層マンションといった、三井建設と住友建設から引き継いだ強みを活かし、新しい価値を創造。

2004
日本の橋梁として初めてfib最優秀賞を受賞した青雲橋完成(⑪)

2005
フルプレキャスト工法「スクライム(SQRIM)工法」を初適用したヨコハマタワーリングスクエア完成(⑫)



2006 - 2008

2006
タイとラオスの国境にかかる第2メコン国際橋完成(⑬)

建築環境総合性能評価(CASBEE) Sクラスを取得した商業施設らばーと柏の葉完成(⑭)

2008
占冠トンネル、遠心カトンネル
吹き抜け工法で施工延長3,000mを達成(⑮)

1994 - 1998

1994
世界初のエクストラードズ橋
小田原ブルーウェイブリッジが完成(⑪)

1995
BCS賞受賞 相模原市立博物館完成(⑫)

1998
日本初の50階の超高層マンション 晴海ビュータワー完成(⑬)

1980

第1回OCAJI賞受賞
ケニアにニューニアリール橋が完成(⑤)

2012

大規模商業施設 ダイバーシティ東京プラザ完成(⑯)

2015

第43回日本鋼センター賞を受賞
あかがねミュージアム完成(⑰)

カンボジアの紙幣に描かれたネアックルン橋(つばさ橋)(⑲)、ベトナムのニャタン橋(日越友好橋)(⑳)開通

2016

グローバル人材の育成に向けて
HDC(Human resources Development Center)を開設(㉑)

丹下健三作品の山梨文化会館、免震レトロフィット工事による耐震改修完了(㉒)



2017

当社水上太陽光発電事業第1号となる
平木尾池水上太陽光発電所完成(㉓)

2018

タンザニア初となる立体交差事業、
タザラ交差点改良工事完成(㉔)

2019

武庫川橋が日本の高速道路橋として初となる
IABSE(国際構造工学会)作品賞優秀賞を受賞(㉕)

2030年の将来像“新しい価値で「ひと」と「まち」を
ささえてつなぐグローバル建設企業”を策定
インドネシア初の都市高速鉄道
ジャカルタ都市高速鉄道南北線フェーズ 1完成(㉖)

2017 - 2019

2020 - 2023

2020

世界初の超高耐久橋梁(Dura-Bridge®)
別荘谷橋完成(㉗)

2022

首都圏初の超高層ZEH・M実証事業に採択された
Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING RESIDENCE
完成(㉘)

ラムサール条約 湿地の環境保全に配慮した北陸新幹線、
深山トンネル他完成(㉙)

2023

国内初となる実用化を目指した
洋上浮体式太陽光発電設備の設置が完了(㉚)



2024

2024

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)
住友館の完成(㉛)

2025.10

地上64階の超高層タワーマンション
麻布台ヒルズレジデンスB 完成(㉜)

2025.12

東京証券取引所プライム市場 上場廃止

インフロニア・ホールディングス株式会社の
完全子会社となる

2026.10

三井住友建設株式会社から
アルソシア建設株式会社に
社名変更



アルソシア建設の 理念体系

アルソシア建設の社員一人ひとりが
一丸となって、指針に基づいた行動を
起こすことで、企業として
目指すべき姿や存在意義を
明確にしていくための指針



存在意義 **PURPOSE**

人と技術の力で、
世界中に豊かな景色を。

大切にしたい価値観 **VALUES**

Have Integrity.

これまでも、お客様、発注者、取引先など、すべてのステークホルダーに対して、
常に真摯に向き合い、信頼関係を築いてきた。
外部環境が日々大きく変化していく中でも、
この誠実さをすべての判断基準と行動の軸としていく。

Master Yourself.

技術を大切にし、究極の品質を目指して事業を展開してきた。
今後もインフラを支えていくために、さらなる高みを目指し技術を磨き続けていく。
技術だけでなく、社員一人ひとりも、自ら学び続け、磨き続けていく。

Cross Borders.

あらゆる境界を越え、多様な力を結集し、新たな価値を生み出す集団となる。
地域、事業領域の垣根にとらわれず、多様な価値観を受容し、
志を一つに、共有する仲間とともに、未来への挑戦を続ける。

Lead the Way.

変化を恐れず、まだ誰も歩んでいない道へ踏み出す。
常識や前例にとらわれることなく、
社会や顧客の課題に正面から向き合い、
新しい発想と行動によって未来を切り拓いていく。

果たしたい使命 **ARSOCIA'S MISSION**

私たちは、インフラを支える
企業として、様々な
ステークホルダーとともに、
持続可能な価値創造に
取り組みます。

パートナー

すべてのパートナーと
公正な関係を築き、
より良い未来を
ともに目指します。

地球環境

環境と調和する
事業活動を通じて、
持続的でレジリエントな
社会の実現に貢献します。

社員

社員一人ひとりの
個性と専門性を尊重し、
挑戦と成長がどこまでも続く
企業文化を育みます。

利用者

確かなものづくりで
世界中の人々の
安全・安心・快適な暮らしを支え、
豊かな未来を創ります。

お客様

技術と品質を追求し続け、
お客様の信頼に応え、
期待を超える新たな
ソリューションを提供します。

受け継ぐべきことがある。変えていくべきこともある。

新社名「アルソシア」は「技術」と「社会・仲間」を意味する造語ですが、込めた思いを教えてください。

新社名を決めるにあたっては、社内アンケート・ワークショップを実施し、「当社のアイデンティティとは何か」について社員たちと議論しました。その結果、長年当社に受け継がれてきた思いである「技術に対する誇り」や「仲間との結び付き」といった意見が多く寄せられました。私たちの最大の財産は「人と技術」であり、それらを大切に作る姿勢に尽きる。そう考え、迷いなく社名として前面に押し出すことを決めました。「アルソシア」という言葉には、そうした想いを込めています。

「人と技術」を掲げ、社内にどんな場面を増やしていきたいですか。

私は若い頃から「自分の領域を限定しない」ことをモットーにしています。設計・技術部門に在籍していた時も、常に営業担当に密着し、「この仕事は会社として獲得すべき」と思ったら、一緒にお客様のところへ行ってニーズを把握・提案して案件獲得に注力しました。仕事をいただいた後は、現場の工事担当に寄り添い、全力でものづくりを支援する、というスタイルです。このように、領域の境界付近の"ポテンヒットを捕りに行く"マインドを常に持ち、組織の枠にとらわれない熱い人の気持ちと、優れた技術ががちり噛み合う場面を増やしたい。そうすれば、自ずと良い結果が生まれるはずです。

インフラそのものだけでなく、その先まで。

タグライン「あしたの景色を創る」パーパス「世界中に豊かな景色を」に込めた思いを教えてください。

「あしたの景色を創る」というタグラインは、「何気ない日常の景色を支えていく」という決意を表現しました。「景色」とは、街や道路、建物といった目に見える風景だけでなく、そこに暮らす人々の生活や地域の活力、社会のあり方までを含めた、未来の姿を示しています。これまでの設計・施工にとどまらず、インフラ・ホールディングスが目指す新たな事業にも挑戦し、インフラそのものだけでなく、その先にある暮らしや社会の豊かさを創っていきたいという思いを込めています。

パーパスにおいては、タグラインの決意に「世界中」という表現を加え、日本で培った技術を海外へ移転し、グローバルに事業を展開しているという当社の矜持を込めています。いずれ、国内インフラ新設需要はシュリンクしていくことが予想される中、新設インフラをつくるロマンを維持し、それを支える技術と人で持続的に成長していくには、海外事業の拡大なくしてはありえないと思い、それぞれ一行に込めた想いを胸に、社内外に向けて活動していきます。

経営理念の刷新もありましたが、意識したことは何でしょうか。

今回の新経営理念策定において、意識したのは継続と変革です。

例えば、第一に継続していきたいのは「誠実さ」です。お客様、発注者、取引先など、すべてのステークホルダーに対して、常に真摯に向き合い、信頼関係を築いてきたと自負しています。これからも、時代がどのように変革しようとも、この誠実さをすべての判断基準と行動の軸としていきたいと思います。

また、これまで通り技術を磨くことはもちろん、これからは技術に限定せず、社員全員がそれぞれの立場で常に「自己を研鑽」し、より強固なチームを目指してほしいと思います。

一方で、変化の象徴として経営理念の中で意識したのが「越えていく」というマインド。さらなる海外進出という大きな目標はもちろん、地域や業種などの垣根を越えて多様な価値観を共有し、志を一つにしながら挑戦していく姿勢を込めています。具体的には、請負だけでなく、企画・開発から運営・維持管理までの様々なパートナー企業との協業を深めていき、総合インフラサービス企業の一員として、飛躍を遂げていくことです。

最後に企業としての未来ですが、必ずしも事業規模の拡大だけを目指していくわけではありません。とにかく変化を恐れず、目の前の社会課題に向き合って挑戦し、その結果、まだ誰も到達していない「一步先の未来」を切り拓く。そんな視座を持ちながら、事業の変革を進めていきたいと思います。

最後に、お客さま、パートナーの皆様メッセージをお願いします。

私たちは、これまでの歴史の中で培ってきた技術力と現場力を大切にしながら、これまでどおり事業を継続していきます。お客様のご要望に確実に応えることはもちろん、その先にある課題や未来をともに考え、期待を超える価値を提供していき、これからもお客様に信頼されるパートナーであり続けます。さらに今後は、インフラ・ホールディングスの一員となり、これまで以上に事業領域も拡大していきたいと考えていますので、ぜひご期待いただければと思います。

協会会社をはじめ、パートナー企業の皆さまにおかれましては、これからも変わらぬお付き合いをいただけますと幸いです。社会から求められる課題は、ますます複雑になっていきますが、それぞれの専門性や経験を持ち寄り、立場や組織の垣根を越えて、より深く連携していくことが重要だと考えています。公正で誠実な関係を大切に、互いに成長しながら、新しい価値と豊かな景色を生み出していきたいと思います。

あしたの
景色を創る

代表取締役社長

柴田敏雄





新名神高速道路 大戸川橋他2橋(PC上部工)工事 ①



新名神高速道路 武庫川橋工事



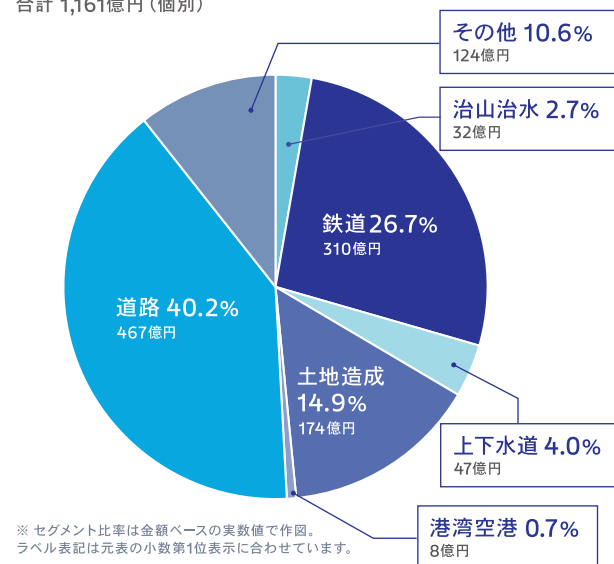
仙台港バイオマスパワー発電所建設プロジェクト
木質ペレットサイロ設備工事

国内土木事業

橋梁やトンネル、河川改修、
土地造成、上下水道施設など、
暮らしを支える様々な
社会インフラを築いてきたアルソシア建設。
日本初のディビダーク工法による
PC(プレストレストコンクリート)橋梁の建設をはじめ、
業界屈指の実績を重ねてきました。
現在も、長い歴史の中で培ってきた技術と、
ひたむきに挑戦する姿勢を受け継ぎながら、
より安全で耐久性に優れた
土木構造物を創造しています。

2025年度 土木受注ポートフォリオ(通期)

合計 1,161億円(個別)



確かな技術と人の力で、前代未聞の長大橋を架ける。

新名神高速道路 大戸川橋他2橋(PC上部工)工事①

新名神高速道路・大津JCTを構成する、延長1,300mを超える長大橋プロジェクトです。急峻なV字谷が続く厳しい自然環境に加え、片側3車線の非対称断面を持つ非常に複雑な構造が求められました。そこで当社は、工場で製作した高品質なプレキャスト部材の積極的な活用や、最新のBIM/CIMによる3次元シミュレーションといったデジタル技術を駆使し、独自の合理化工法を採用。数々の難易度の高い施工条件を克服し、現場の徹底した安全性確保と大幅な工期短縮を同時に実現しました。

本プロジェクトの成功を根本で支えたのは、若手エンジニアから経験豊富な熟練の職人までが、世代や立場の壁を超えてワンチームに結束した人の力です。その成果は業界内でも高く評価され、2026年に「プレストレストコンクリート工学会賞(作品賞)」を受賞しました。深い山あいに見れたダイナミックで美しい巨大橋梁は、日本の大動脈としてこれからの物流ネットワークと人々の暮らしを力強く支え続ける「あしたの景色」そのものです。

日本の大動脈をつなぐ、最難関のトンネル。

新東名高速道路 谷ヶ山トンネル西工事

新東名高速道路は、まさに日本の大動脈。その一部として神奈川と静岡を貫く谷ヶ山トンネルのうち、静岡県側1,560m、下り線1,626mの合計 3,186mを施工したプロジェクトです。富士山のふもとという豊かな自然環境の中、最大の難関となったのは掘削時における多量の湧水でした。そこで、ウレタン系の止水減水材を超高圧注入する日本初の新工法を導入し、この壁を見事に克服。経験の少ない若手所員が自ら最前線に立ち、発注者や協力会社と「良いものをつくる」という熱い思いを共有して結束。全員が心をつなげて幾多の困難を乗り越え、全工期無事故無災害で竣工を成し遂げました。



新東名高速道路 谷ヶ山トンネル西工事

DBO方式で挑む、水インフラの改革。

第80工区 玉川ポンプ場建設工事

山梨県宇部市の下水道の拠点施設更新にあたり、設計・建設から完成後20年間の維持管理までを包括して担う、「DBO方式」による官民連携事業としてスタート。最大の難関は、建設地の地下に潜むかつての炭鉱坑道跡(古洞)の存在でしたが、事前の空洞充填や最新の土留め工法を駆使してこの地盤リスクを克服。地元企業などと強固に結束し、心をつなげて着実な工事を推進しました。こうした実績を土台とし、今後はグループ会社である「wing」とのシナジーによる、水インフラの設計・建設から運営までを一気通貫で担う、次世代のソリューション展開が見込まれています。



第80工区 玉川ポンプ場建設工事



HARUMI FLAG PARK VILLAGE ②



HARUMI FLAG PARK VILLAGE T棟 ③



三井アウトレットパーク マリンピア神戸

国内建築事業

アルソシア建設の建築事業は、超高層住宅を最短1フロア3日という高速施工を可能にする、独自技術のスクライム工法を強みとし、豊富な実績を有しています。

また、鉄骨と鉄筋コンクリートのハイブリッドであるMIC構法で築く大空間の物流倉庫やデータセンター、カーボンニュートラルに貢献するZEB/ZEH建築など、幅広い実績を創出してきました。

人々の暮らしと社会の未来をささえる建築の可能性を広げています。

レガシーを未来へつなぐ、官民一体の街づくり。

HARUMI FLAG PARK VILLAGE ②,③

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で世界のアスリートを迎えた選手村は、大会後約12,000人が暮らす新たな街HARUMI FLAGへと生まれ変わりました。当社は、この国家的プロジェクトにおいて、選手村としても活用した分譲マンション6棟と、新たに分譲タワーマンション1棟を施工。賑わいを支える商業棟の設計・施工も担当し、街の骨格づくりを支えました。

本プロジェクトでは、構想段階から行政と協働し、街全体の景観や公共空間のあり方を見据えて計画が進められました。

例えば東京都と連携し、交差点広場や歩道を商業棟と一体的にデザイン。屋外広告物のデザイン協議を通じて景観形成にも配慮し、公共空間と民間建築の境界を感じさせない街並みを実現しました。

また、防災倉庫、帰宅困難者待機スペースなども整備。防災対策といった地域課題の解決にも大きく貢献しています。

大会のレガシーを未来の暮らしへ。

次代の都市づくりを象徴するプロジェクトとなりました。

当社史上最大規模のプロジェクト、高さ日本一のタワーマンション。

麻布台ヒルズレジデンスB

新しい街、麻布台ヒルズの一角に生まれた超高層住宅「麻布台ヒルズレジデンスB」。住宅としては日本一の高さを誇る約236mで、地上64階・地下5階、970戸を擁する当社屈指の大型プロジェクトです。最大の難関は、超深層まで掘り進める地下工事でした。幾度も議論を重ね、知恵を出し合いながら課題を着実に解決。所員をはじめ関連会社・協力会社・現場の作業員までベクトルを合わせて結束し、幾多の困難を乗り越え、全員が心をつなげて「竣工」という目標を成し遂げることができました。



麻布台ヒルズレジデンス B

記憶を受け継ぎ、愛着をつなぐ文化施設。

ふじみ野ステラ・ウェスト、イーストホール棟

埼玉県ふじみ野市の東西には、市民に愛されてきた2つの文化施設がありました。建て替えに携わるにあたり、私たちが大切にしたのは、市民の方々の記憶と愛着をつないでいくこと。そこで、既存建物の花壇で育てられていた草花を仮設花壇で大切に育て、竣工時に新しい花壇へ移植。さらに、既存の花壇に使われていたレンガも再利用しました。既存建物への愛着が思い出とともに継承され、これからも市民の憩いの場として豊かな暮らしを支えてほしい。そんな願いを込めたプロジェクトとなりました。



ふじみ野ステラ・ウェスト



フィリピン 南北通勤鉄道事業マロロス - ツツバン CP02 ④

海外事業

半世紀以上の歴史と実績を誇る海外建設事業。

土木分野では東南アジアを中心に日本の政府開発援助(ODA)を通じた都市交通インフラの整備を推進し、建築分野ではインドを中心に工場や倉庫などを手がけ日系企業の海外進出を力強く支えています。

各国の風土に適した先進技術と最適な設計・施工を強みに、多国籍な人材とともに技術の深化と伝承を実践。アルソシア建設はこれからも、世界各地で持続可能な地域社会の発展に貢献していきます。

東南アジアの未来を動かす、都市インフラへの挑戦。

フィリピン 南北通勤鉄道事業マロロス - ツツバン CP02 ④

ホーチミン都市鉄道建設工事ペンタイン - スオイティエン区間(1号線)パッケージ1a ⑦

ジャカルタ高速鉄道建設工事CP106工区 ⑧

急速な経済発展とともに深刻化する東南アジアの交通渋滞や環境課題。私たちは日本のODA事業を通じて、各国の暮らしと未来を支える都市交通ネットワークの構築に挑んできました。

首都マニラを起点とする高架橋と駅舎を建設し、国家の大動脈を拓くフィリピン南北通勤鉄道。歴史的建造物が近接する市街地での大規模開削工事を高度な技術で完工し、市民の悲願であった始発駅「ペンタイン駅」を開通へ導いたベトナム・ホーチミン初の地下鉄。そして、シールドトンネル技術を結集し「JAPANコンストラクション国際賞」を受賞したインドネシア・ジャカルタ初の地下鉄(MRT)。

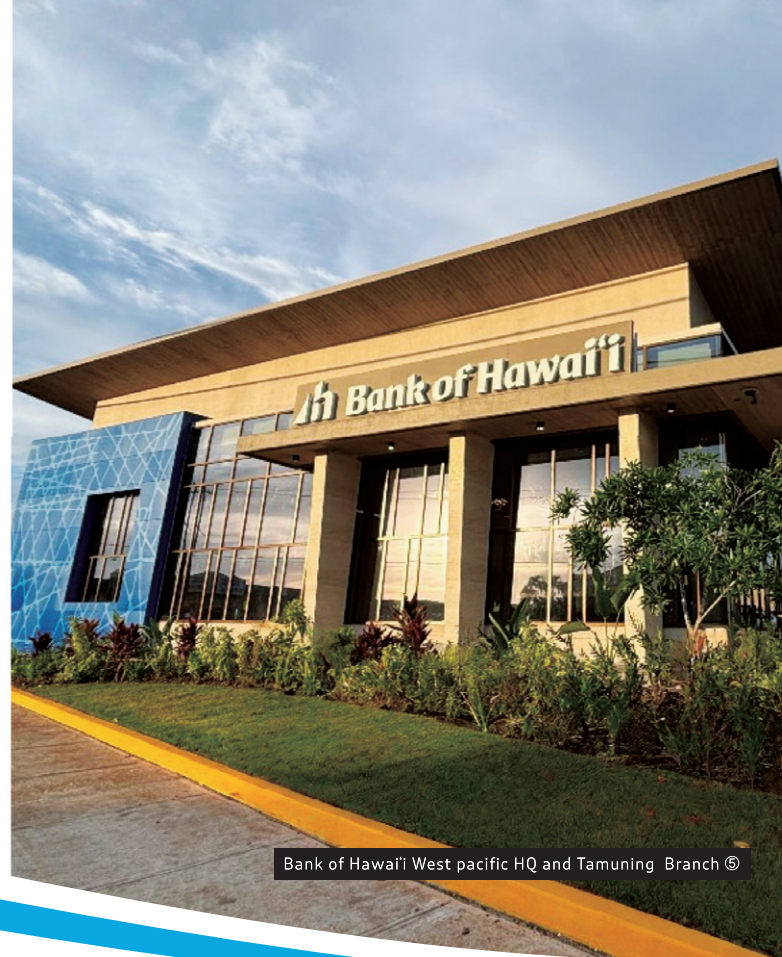
現地の文化に寄り添い、培った技術力で挑んだ一つひとつの現場が、都市の景色と人々の日常を豊かに変えています。国境を越え、地域社会とともに築いた信頼を力に、私たちはこれからも世界に誇れるインフラを創り続けます。



ホーチミン都市鉄道建設工事ペンタイン - スオイティエン区間(1号線)パッケージ1a ⑦



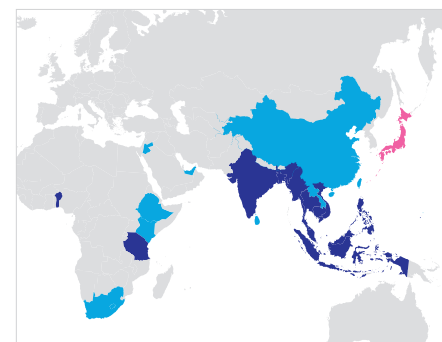
ジャカルタ高速鉄道建設工事 CP106 工区 ⑧



Bank of Hawai'i West pacific HQ and Tamuning Branch ⑤



商船三井商船大学 ⑥



■ 現在実施国 (拠点を含む)

13カ国

■ 過去実施国

25カ国

街に調和するモダンデザインの銀行。

Bank of Hawai'i West Pacific HQ and Tamuning Branch ⑤

グアム・タムニンに西太平洋地域本社を構えるハワイ銀行。その新たな拠点づくりを当社が担いました。ビル建設から業務開始に必要な許可取得まで、与えられた工期はわずか16か月。しかし、綿密な工程管理と現場での柔軟な対応により、この難しい条件を乗り越えることができました。スタッコ仕上げやガラス壁面、青いタイルが映える外観は、街並みに美しく調和し、現地の厳しい建設基準を満たす安全性と機能性も実現。当社の技術力と対応力を象徴するプロジェクトとなりました。

巨大な船型施設を擁する、アジア最大級の商船大学。

商船三井商船大学 ⑥

フィリピンのカピテ州に誕生した「商船三井商船大学」。アジア・太平洋地域で最大規模を誇る船員育成拠点の建設を当社が担いました。最大の特徴は、実船を模した船体型の実習訓練施設「SHIP IN CAMPUS」。コンクリートで船首の滑らかな曲線を表現することは極めて困難でしたが、プレキャスト工法の採用や現場での緻密な施工管理により、この難題を乗り越えました。最盛期には1日1,000人を超える作業員が動員される中、当社社員と現地スタッフが国境を越えて結束。当社の技術力とグローバルな対応力を象徴するプロジェクトとなりました。



当社セグメント工場見学 ⑨



VR安全学習 ⑩



全ての海外拠点から選抜スタッフを集めたグローバルナレッジ研修 ⑪



加東市(平池・新池)水上太陽光発電所 ⑫



水循環式自己処理型バイオトイレ「SMilet (スマイレット) ⑭」



樹木リスク評価システム「tree AI(ツリーアイ) ⑬」

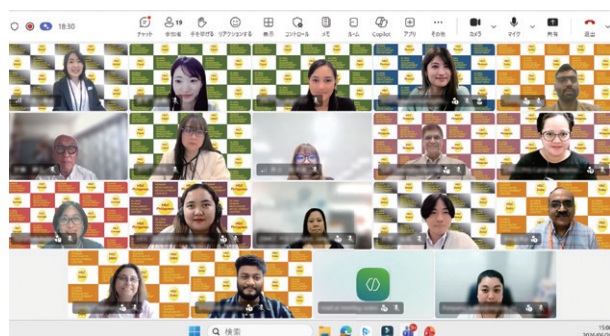
海外事業

グローバル人材の育成と登用 ⑨、⑩、⑪

海外事業における人材育成を重視していることも、アルソシア建設の大きな特徴。世界各地に展開する拠点の自立と、拠点間のネットワーク強化の両立を目指しています。その核となるのが、全拠点から社員が集う「HDCグローバル研修」。国際交流を通じて絆を深めながら、幅広いテーマを学び、未来のグローバル人材を育てています。また、5か国にHDC(Human resources Development Center)を設立し、実務に根差した「HDCローカル研修」も展開。さらに、現地社員から管理職候補を「Management Member(MM)」として、その活動を支える人材を「Operation Member(OM)」として認定し、研修講師などにも積極的に登用しています。人を育て、活躍の場を広げ、その力を次の成長へつなげる。これからも人材の育成と登用を通じ、海外事業をさらに強化していきます。



「ジャカルタ都市高速鉄道事業(フェーズ2)(第1期)CP203工区」において、1,000万時間無災害を達成



MM・OMネットワーク活動

新規周辺領域事業

長年、建設事業で培った技術や営業ネットワークをバックボーンに、社会課題の解決につながる新規周辺領域事業を推進。柔軟な発想で既存の強みを新たな領域へ広げ、社会を前に進める価値を提供しています。

眠っていた水面に、新たな価値を。

再生可能エネルギー事業 ⑫

これまで使用されていなかった池や貯水池などの水面を有効活用して発電できるのが水上太陽光発電です。森林を伐採せずに設置でき、波や風、水位変動にも対応して安定的に発電。地域で電力を賄う「地産地消」も叶え、脱炭素社会の実現にも貢献します。

樹木管理をAIで変え、街の安全を守る。

樹木維持管理支援事業「tree AI(ツリーアイ) ⑬」

街路樹などの倒木事故が増加し、樹木の健全性を診断する樹木医などの専門家不足も課題となっています。この課題に対応するため、樹木リスク評価システム「tree AI(ツリーアイ) ⑬」を開発。AI画像解析による危険木の抽出と診断データの一元管理で負担を軽減し、安全性を高めます。国のモデル事業にも選定され、人とAIによる樹木管理の社会実装を進めています。

現場の課題が、社会を支えるインフラへ。

バイオトイレ製造販売事業「SMilet(スマイレット) ⑭」

「SMilet(スマイレット) ⑭」は、建設現場に清潔な水洗トイレを提供するために開発した水循環式バイオトイレ。上下水道がなくても快適な環境が実現できます。現在は災害時の備えとして自治体にも導入され、防災インフラへと進化しています。